



131
2024春

にってん フォーラム

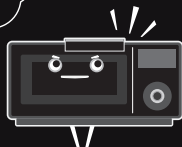
高田馬場 ^{いち にーさん しっ!} 1-23-4	長岡英司
2024年度事業計画のご紹介	立花明彦
ある彫刻家の背中～中村宏先生とその仕事	宮坂慎司
詩はたった一枚の晴着～武田豊の世界	澤村潤一郎
専攻科音楽科の思い出	
～筑波大学附属視覚特別支援学校専攻科 音楽科 閉科によせて	上田喬子
投票用紙記名補助具の製作	内藤 牧
高田馬場駅 3社合同 駅員誘導研修	島田延明
川崎市視覚障害者情報文化センターだより	藤本 剛
私と日点	中村陽子
明日につながる支援の力	
リレーエッセイ	村上晴香
ご存知ですか?こんな商品	
チャリティコンサートのご案内	



らく楽アシスト

音声で、
あなたをアシスト。

あたため
がんばります。



レンジグリル

18時30分に
炊き上がります。



ジャー炊飯器

調理中はそばを
離れないでください。



IHクッキングヒーター

あふろの煙は
しましたか？



エコキュート



https://twitter.com/ME_RakuRaku



らく楽アシスト

検索

www.MitsubishiElectric.co.jp/home/shiawase-share/rakuraku/



三菱電機株式会社

〒100-8310 東京都千代田区丸の内2丁目7番3号 (東京ビル)

●三菱電機お客さま相談センター 家電品の購入相談・取扱い方法

フリーダイヤル 1120-139-365 (無料)
いつでもセンター 365日

携帯電話・PHSの場合
TEL 0570-077-365 (有料)

FAX 0570-088-365 (有料)

フリーダイヤル・ナビダイヤルをお使いいただけない場合は
TEL 03-3414-9655 FAX 03-3413-4049 (有料)

■ご相談対応 平日 9:00 ~ 19:00 左記以外の時間は受付のみ可能です。
土・日・祝・弊社休日 9:00 ~ 17:00

*電話番号は変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください。
*電話番号をお確かめのうえ、お間違のないようおかけください。

不便も増えているのでは

ながおかひでじ
理事長 長岡英司

ICT（情報通信技術）やAI（人工知能）が、便利な世の中の実現に活用されています。人口の減少が顕在化している日本社会では、人手不足の解消にそうした技術が大いに有効と期待されています。人ではなくデジタル化された自動システムに相対する場面が、これからますます増えていくのでしょうか。

前号の本欄に書かせていただいた通り、私は昨秋転居をしました。それに伴って、多くの変更手続きが必要でした。住所や電話番号だけでなく、引き落としや振り込みの銀行口座などです。パソコンやスマホを使えばオンラインで簡単に変更手続きができると案内されています。しかしながら、音声読み上げを使用して操作する私にとって、オンライン手続きはけっして容易ではありません。

そこで、従来通り電話に多く頼ります。最近の電話受け付けは自動応答がほとんどです。階層化されたメニューを音声案内に従って操作し、要件に対応してくれるオペレータを呼び出します。しかし、やっと目的のメニュー項目にたどり着いても、「ただいま電話が大変込み合っており……」というアナウンスが延々と続き、長い時間待たされるのが通例です。それゆえに、オンラインでの手続きや問い合わせを勧める案内が流れるのでしょうか。あるクレジットカード会社の手続きでとても手こずりました。問い合わせの電話番号にかけると、オンラインでの手続きや問い合わせに誘導するばかりで、オペレータに繋がるメニュー項目が見つかりません。実は、転居で固定電話の番号が変わり、この会社から自動送信されてくる認証用の数字を受け取れないために、オンライン手続きができなくなっていたのです。結局、家族がスマホの画面上を目視で探し、分かりにくい中から郵送による手続きの方法をようやく見つけ出して事なきを得ました。

社会の一部には、無秩序とも言えるデジタル化が利用者の負担になっているとの批判や懸念があるようです。人手が適切に介在する仕組みの維持とともに、多様なニーズに対応できる真に優れた自動化技術の開発を、切に願う次第です。

2024年度事業計画のご紹介

たちばなあけびこ
館長 立花明彦

春を彩る桜、私たち日本人は古来、この花をこよなく愛し楽しんできました。当館の南側緑地帯の一角には1本の「春めき桜」があります。2015年12月、創立者・本間^{ほんまかずお}一夫生誕百年を記念して植樹したものです。今年の開花は3月7日で、10日後に満開となり、道行く人が思わず足を止めて見入るほどに咲き誇りました。

近年、桜の開花は早まっていて、新入生や新社会人等を歓迎する花から、巣立つ人、新たな歩みを始める人々を祝福し、送り出す花になっているようにも思われます。人生の節目を見守ってくれる桜ですが、春めきは早咲きであるので当館関係者には年度末にあることを伝えると同時に、新年度の準備を急ぎ立てている花のようにも映ります。春めきの叱咤を受け、2024年度の事業計画を策定しました。今年度も五つの重点課題を設定していますが、紙数の制約から、ここでは三つの重点項目をご紹介します。

1. 図書等提供サービスの質の向上に向けた館発行資料の内容の見直し

図書館は利用者あってこそ成り立つ機関で、当館では一昨年から登録者の増加を重要な課題に据えており、今年度も継続して取り組みます。関連して、利用登録者が図書等の貸出をはじめ、各種サービスについて満足度を上げられるようサービスの向上を図ります。この一環で2024年度は利用者へ発信・発行している印刷物等を利用者の視点で見直し、読みやすくわかりやすいものに改善します。

2. 蔵書点訳における新たな製作体制の整備と始動

蔵書製作における協力者である点訳・朗読ボランティアの減少は全国的に見られ、その確保は重要な課題となっています。当館でも点訳者の場合、2000年の時点で201人の登録者数があったものの、10年間で30%近い減少を見て、2022年度の数も2000年の約4分の1まで減りました。これに伴い、蔵書となる年間の点訳書受入れ数も実績が下がっているのは言うまでもありません。2000年度には485タイトルの点訳書を受け入れましたが、その後、年を追うごとに減少し続け、コロナの影響もあって2022年度は129タイトルまで落ち

込んでいます。

点字を守り、伝え、一定量の良質な点訳書を提供することは当館の大きな使命です。そこで、昨年度は点字製作体制の見直しと改善を図るため、ワーキンググループを発足させて検討を進めました。その結果、蔵書点訳では製作数を上げる新たな方策を見出したので、これを年度内に始動できるよう準備を進めます。

3. 首都圏直下型地震等を見据えた防災対策ならびに災害時の避難所としての体制整備

本年1月1日に発生した能登半島地震は、この国が地震国であることと自然の威力の大きさと、その下で、人は知識や文明をもっても無力であることを見せつけ、同時にできる限りの防災準備と発災時の対応の必要性を知らしめてもいます。当館は災害時、発災時刻によっては、来館者、職員の安全確保のために臨時の避難所とならねばなりません。実際、東日本大震災のときには帰宅困難となった利用者、職員が一夜を過ごしました。こうした経験もあって、昨年末には警察、鉄道・バス事業者、行政と共同で、災害時、交通機関の麻痺によって帰宅困難となった視覚障害者の、駅から当館までの誘導を中心とする防災訓練を実施したところです。災害時に予想される役割を適切に果たすためには、一つに防災計画を明確化し、これを的確に実行するためのマニュアルを整備し、職員が理解する必要があります。ついでには、その作成を急ぎます。併せて一時避難所としての備えと必要な環境整備を進めます。

これらの課題について着実な成果を得、事業やサービスの安定と発展を強化できるよう努めて参ります。改めて、当館への変わらぬご指導とご支援をお願い申し上げます。



満開の「春めき」（3月19日撮影）

ある彫刻家の背中～中村宏先生とその仕事

筑波大学 芸術系助教 みやさかしんじ 宮坂慎司

筆者が中村^{なかむらひろし}宏先生のアトリエを訪ねたのは2022年9月のことでした。そこはまさに彫刻家という感じの空間で、これまでに制作されてきた作品たちや制作道具、芸術関連の書籍が並んでいました。既にその場所に中村先生はいませんが、そこには「作家らしさ」が確かに存在し続けていて、私は彫刻制作者同士言葉を交わしているような思いがしました。有意義な一時ながら、しかし同時にその作品たちの行く末が気がかりでした。

そこから一年余り、全ての作品の引き取り手が決まったと聞いたときには、驚きと共にある種の感動を覚えました。諸先輩のアトリエ整理の経験を有する者からすると、大げさではなくこれは奇跡的なことであり、このこと自体が中村宏先生のお人柄を語るものだと感じました。恩師を慕う教え子の方々の思いが、彫刻家の作品を生かしたのです。

中村宏先生は1933年、栃木県足利市に生まれました。筑波大学の前身である東京教育大学の専攻科を修了し、日本でもっとも大きな美術団体である「日展」や、彫刻家だけで構成される日本彫刻会が主催する「日本彫刻会展覧会」(日彫展)を主な作品発表の場としてきました。1973年・74年に日展で特選を受賞し、1976年には横浜国立大学の教授となります。その後、1986年、文部省派遣在外研究員としてヨーロッパに渡り遊学します。1991年には《足利尊氏像》が故郷の足利市に設置され、翌年には足利市民文化賞を受賞しました。

ちょうどこの頃、中村先生は「触れる彫刻展」にも尽力することとなります。志を共にする4人の彫刻家、上野^{うえのひろみち}弘道・桑山^{くわやまがこう}賀行・柴田^{しばたよしき}良貴・中村宏は、1993年、すべての作品に触ることができる展覧会「グループ蒼土^{そうど}彫刻展」を開催しました。第2回展のダイレクトメールには、会場となったギャラリー^{ざんれい}銀鈴社から、以下のような文章が寄せられています。

「見るだけでなく、掌で触れて観賞して貰いたい…。4人の彫刻家の提案は、目の不自由な少年が彫刻に触れ、新鮮な感触の喜びと湧き出る興味に顔を輝かせていたことに始まりました。作家が掌で造った作品に掌で触れてみることは、新たな彫刻観賞の体験になることでしょう。」

ちなみに、この「蒼土」という名は、中村先生の案によるものだったようです。第8回展の様子は、1998年冬に刊行された本誌「**にってんフォーラム**」の26号で、トピックスに掲載されました。

グループ蒼土による展覧会は、「手で見る彫刻展」として、2005年の第15回展まで続けられます。「15回」というのは当初より4人が決めていた回数でした。その後は、日本彫刻会の「触れる彫刻鑑賞プロジェクト」に引き継がれるような形で、彫刻に触れる「タッチツアー」や、視覚特別支援学校を美術館に招く「触れる鑑賞教室」といった活動は広がりを見せ、現在まで続いています。

本稿の執筆に際して、懐かしく日展・日彫展の図録を見返していました。2012年、第42回日彫展に出品した《潮騒》を区切りとして、中村先生は展覧会出品からは離れていかれました。私の出品は2005年からで、7年ほど展覧会を共にさせていただいた形です。2013年以降、中村先生が出品されていないことを寂しく思ったのを今でも覚えています。

ただ、今になって、それが「彫刻家中村宏」らしい引き際だったのだとも理解できます。晩年、自身の思い通りに制作の手が動かせなくなると潔く彫塑ヘラを置き、中村先生はその活動の中心を執筆に移しました。実直で、芯があり、清らかさを湛える中村先生の彫刻表現。私が中村先生の背中に感じた高潔さは、しっかりとその作品たちにも宿るようです。

中村先生は「人生を旅と出会いと心得る」と記し、自然への感動や、社会や生き方のあり方に関心を寄せていました。このたび日点に寄贈された作品「旅」に触れて、皆さんにも、ある彫刻家の姿を感じていただきたいです。

注：寄贈されたドン・キホーテをモチーフとした作品「旅」は、当館附属の「ふれる博物館」に展示しております。開館日・開館時間等はホームページをご覧ください。



当館に寄贈された作品「旅」(2000 白日会)

詩はたった一枚の晴着～武田豊の世界

さわむらじゅんいちろう
図書製作部長 澤村潤一郎

わたくしごとですが、昨年末に『^{たけだ ゆたか}忘れたステッキ ^{かめなく}武田豊詩選集』(龜鳴屋)という小さな詩の本を上梓しました。

武田豊(1909 - 1988)は、琵琶湖畔の町・長浜で「ラルルレロ書店」という古本屋を営みながら詩を書いていた人です。幼くして眼を患い、また長じて耳も悪くした苦労人ですが、詩の仲間や町の人たちから「おっちゃん」と呼ばれ愛されました。

この詩人を知ったのは今から10年以上も前のこと、あるエッセイで紹介されていたのを読んだのがきっかけでした。わたしは長浜生まれなので、同郷であること、そして自分が視覚障害に関わる仕事をしていることから、奇縁を感じました。

足跡を辿ってゆかりの人たちや息子さんを訪ねると、みな懐かしそうに、いい表情で思い出話をしてくださいました。それでますますこの詩人に惹かれてゆき、その詩と生涯を今の世に問いたいと願うようになりました。

本書では、残された10の詩集や同人誌などから59篇を選び、巻末に小伝を兼ねた解題を書き下ろしました。収録作のひとつ、「晴着」を紹介しましょう。

詩は私の晴着
たった一枚の晴着

見て呉れ
このポンポンした
もめんの生地を――



暮らしむきは決して楽ではなかったはずですが、周囲への温かなまなざしや詩へのひたむきさにあふれた「おっちゃん」の世界に、ぜひ触れてみてください。墨字版のご注文は版元の龜鳴屋 (<https://kamenakuya.main.jp/>) へ。当館では現在点字版とデイジー版を製作中です。

専攻科音楽科の思い出

～筑波大学附属視覚特別支援学校専攻科音楽科 閉科によせて

うえたたかこ
上田喬子

私は、2002年4月、15歳で筑波大学附属盲学校（現視覚特別支援学校）高等部音楽科に入学しました。附属の音楽科は本科（高等学校の3年課程に当たる）の上に専攻科という2年課程があり、たっぷり5年間学ばせていただきました。音楽科の専門授業は、個人レッスンなどの他に、コンサートの企画や学外での演奏等、高等部1年生から専攻科2年生まで、音楽科全体で取り組む活動がありました。当時の専攻科には、高校を終えたばかりの学齢の方に加えて、中途失明して入られた20代と40代の方がいらっしやり、大人と共に意見を出し合う経験は、同世代との学びしか知らなかった私には大きな刺激でした。

全国の盲学校には、鍼灸やマッサージを学ぶ理療科など職業課程のコースが設置されています。琵琶法師や瞽女でも知られている通り、盲目の演奏家が日本の音楽史の一端を担ってきた流れから、音楽を職業とするための教育は、明治時代に設立された盲学校の前身校においても継承されました。戦前には師範科が設置され、演奏家のみならず、教員や指導者も多く輩出されました。現在は、教員養成課程はなくなっていますが、高校3年間を終えた学生が専門性を高めて進学を目指したり、途中で視覚障害となった方が音楽とともに再び社会で自立生活を送るための再スタートの場という意味合いも持つようになり、専攻科では音楽を通して社会との繋がりを意識し、進むべき道を見つめるための時間が与えられていたと思います。私の専攻科時代の同級生は、大学卒業して間もない24歳の方でしたが、初めての盲学校で、音楽はもちろん、白杖歩行や点字指導などの自立訓練を受け、その後アメリカに留学し、サクソ奏者としての道を切り開きました。

2024年の3月で、専攻科音楽科は最後の卒業生を送り出し、閉科しました。一つの歴史の節目ではありますが、視覚障害者と音楽の絆がきれるわけではありません。欲する人さえいれば必要な道が開けると信じて、新たな時代を歩むばかりです。

投票用紙記名補助具の製作

生活支援部 前部長 ないとう 内藤 まき 牧

日本点字図書館『わくわく用具ショップ』では、見えない、見えにくい方が、投票する際に安心して記名できる『投票用紙記名補助具』を製作しました。

ある自治体が「自分で候補者名を書きたい」というロービジョン者の思いを叶えるために、クリアファイルを投票用紙サイズにカットし、候補者名記入スペースをくり抜いたものを製作したという新聞記事を目にしたことがありました。このような手作り補助具の製作事例は、その後、他の自治体からも報告されるようになったのです。



投票用紙記名補助具

そしてこの度、荒川区選挙管理委員会が製品として補助具導入を検討している、というお話を伺ったことをきっかけに、都内のいくつかの選挙管理委員会のご要望も取り入れながら、商品化を進めることになりました。

素材はポリプロピレン樹脂を使用し、形は投票用紙サイズの袋状にして、記名部分をくり抜いています。書きやすさの工夫は、投票用紙がずれないように挿入口をひとつにしたところ、記入する窓枠が触ってはっきりわかる厚さの生地を使用したところです。また、補助具の色は、挿入した投票用紙を目視できる透明と、記名スペースがくっきりと際立つ黒の2種類です。透明の記名くり抜き部分には、5mm幅の黒枠を印刷し、記名スペースがわかりやすくなっています。

自治体職員の市民に寄り添う気持ちから生まれた手作り補助具が、いずれはどここの投票所にも普通に備えられるよう願っております。

高田馬場駅 3社合同 駅員誘導研修

しまだのぶあき
生活支援部長 島田延明

2月16日、J R高田馬場駅、西武鉄道高田馬場駅、東京メトロ高田馬場駅の鉄道事業者3社合同で、視覚障害者の誘導研修が行われました。J R高田馬場駅の駅員への誘導研修は今まで何度か行ったことがありますが、西武鉄道や東京メトロも参加して合同で実施するのは初めての試みになります。

当日は、当館からは私を含め2名のスタッフでJ R高田馬場駅の事務室に伺い、3社合わせて12名の駅員の方に誘導法をお伝えしました。前半は、視覚障害者への声かけから、誘導する際の基本姿勢、狭所の通過の仕方、階段の上り下り、電車乗降、椅子（座席）への誘導方法などを見本を示して説明した後、実際に二人一組のペアになり実践していただきました。皆さん、普段から様々な乗客対応をされているだけあって、安全を意識した誘導をされていました。

後半は、実際にJ R高田馬場駅構内を歩き、階段を使っての練習も行うことができました。高田馬場は、鉄道3線の乗換駅でもあり、とても多くの乗客が利用されます。乗客数に対して、駅のホームは広いとは言えず、ホームドアがあるものの、視覚障害者の誘導には大変気を遣います。誘導法のコツを少しでも知っているとスムーズに案内できるので、とても有意義な時間になったと思われれます。また、教える私どもとしても、このような混雑した環境で、どのようなことに気を付ければ良いかを改めて考える機会になりました。

高田馬場駅近辺は、当館をはじめ、多くの視覚障害者支援施設や団体が集まっているので、駅を利用される視覚障害者の数は他の駅と比べ格段に多くなります。駅員による適切な誘導が受けられるのは、視覚障害者にとって安心して鉄道を利用できることに直結しますので、今回のような研修を継続していきたいと思います。



川崎市視覚障害者情報文化センターだより

大盛況！センターの特大イベント2選！

利用サービスグループ ^{ふじもと} 藤本 ^{こう} 剛

川崎市視覚障害者情報文化センターでこの約半年間に実施した催しの中から、大好評を得た二つをご紹介します。

一つは、4年ぶりの開催となった「センターまつり」です。これは、センターのサービスの案内や相談会、ボランティアによる朗読ミニライブ、ボランティアグループの紹介、落語会、最新機器の展示、地元の福祉協会によるマッサージなどを通して、皆様に楽しんでいただきながらセンターの事業、地域で活動するボランティアグループの活動、視覚障害とその周辺事情を理解していただく一大イベントです。

開催された2023年12月9日は穏やかな晴天。10時からの開始に合わせ利用者やガイドさんの姿が見え始めます。当日は当センターが入る「ふれあいプラザかわさき」の全フロアを活用し、1階で受付、2階の多目的室ではボランティア活動の紹介や機器展示会、ホールでは朗読ミニライブに落語会、さらにはエレベーターホールの前も休憩スペースに転用。3階のセンターでは、普段同様に用具を販売しましたが、お楽しみ抽選会も行い、大勢の方にお買い物(+a)を楽しんでいただきました。またこの階のエレベーターホールの前で、日本盲導犬協会による盲導犬体験コーナーを設け、さらには市内の障害福祉サービス事業所からはパンを販売していただき、休憩スペースを整えてお茶やコーヒーの無料サービスも盛り込みました。来場くださった皆様だけでなく、ご参加いただいたボランティアさん方にも大いに楽しんでいただけたことと思われま



馬石師匠は「井戸の茶碗」などを披露

来場いただいた方は200名近くにのぼり、正午を前にパンは売り切れ、事前申し込みだった隅田川馬石師匠すみだがわばせきによる落語会も満員御礼。アンケートでは、企画内容とその質、スタッフの対応にご好評をいただきました。センターまつりは2024年度も実施する予定です。

二つ目のイベントは「かわさき冬のコンサート」です。毎年、春・冬とコンサートを企画していますが、2024年2月のコンサートに出演くださったのは国際的なヴァイオリニストの和波孝禧わなみとかよしさんです。和波さんは、当法人の評議員を務めておられ、センターについてもご存知で、ピアニストの土屋美寧子つちやみねこさんとお二人での出演を快く承諾くださいました。小さな会場でのあまりのスケールの大きな催しに、一担当職員である私にはサプライズとなる企画です。

2月10日の当日は、過去最多の142名の方が来場くださいました。コンサートは、前日の夜、大きなショックと悲しみとして世界中を駆け巡ったニュースについて、和波さんがお話されることから始まりました。それは、世界に名だたる指揮者である小澤征爾おざわせいじさんの訃報です。和波さんと小澤さんとの出会い、すばらしい信頼とつながりについて、ここで多くを記すものではありませんが、和波さんご自身と小澤さんとの関係に触れられ、追悼の意を込めてバッハの名曲「G線上のアリア」を演奏し、黙祷をささげられてから、プログラムへ移りました。長年に渡る演奏活動と高い技術によって生み出されるそれぞれの曲を、言葉で言い表すことはできませんが、会場の皆さんの心に染み入ったことは確かです。終演では、感激と感謝の拍手が会場いっぱいに鳴り響いたことは言うまでもありません。

和波さんによれば、センター利用者の皆様にクラシック音楽を知ってもらおうとお考えになり、今回のコンサートにご出演くださったとのこと。和波さん、本当にありがとうございました。センターでは引き続き、利用者の皆様に参加いただける様々なイベントを実施して参ります。



私と日点

なかむらようこ
点訳ボランティア 中村陽子

六十六年前、高校二年生の時、クラブが送った寄付に対するお礼状が、日本点字図書館から届きました。真白な紙に小さな点が浮き出て、点字の読めない私達のために墨字がタイプされていたのですが、点の並びだけでこれだけ沢山の意味が表されるのだと驚き、是非やってみたいと思いました。すぐ図書館に問い合わせ、通信教育での練習が始まりました。しかし、この時は実際の本の点訳までは進めませんでした。

二十五年後、主人のサウジアラビアへの単身赴任が決まり、小・中・高校生、三人の子供との生活が始まりました。中途半端のままだった点訳に再挑戦する良い機会だと思い、講習を受け、昭和五十八年、初めての点訳本「若き教師たちへ」が完成しました。翌年、主人が帰国しましたが、半年後には家族全員でロスアンゼルスに転勤になりました。

帰国後、平成五年から落着いて点訳に再挑戦し、週一日お手伝いに行き、お弁当を食べながら皆様のお話を聞くのが、とても楽しみでした。

一点、一点、点筆で紙に打つことから始まり、ガチャガチャと大きな音を出しながらのタイプライター。ミスをする、その紙一枚やり直しですから緊張感は相当なものでした。パソコン点訳になった時、やり直し自由、音声読み上げを使っての校正など、信じられないほどの機能が増え、かかる時間は半分になり、面白さは倍増しました。

いつまでたっても、マスアケなど迷う事が沢山出てきますが、指導して下さった先生が、「校正は図書館のプロにまかせて下さい。墨字を点字に変えていただく事がどんなに助かっているか」と言って下さったことで、めげずに続けられているのだと思います。

全く関心の無かった分野の本を点訳することもあります、知らなかっただけで、思いがけない内容に引き込まれる事も度々あります。あと何冊点訳出来るかわかりませんが、どんな本とめぐりあえるか、楽しみにしています。

◆ ◆ ◆ 明日につながる支援の力 ◆ ◆ ◆

このコーナーでは、当館をご支援くださっている団体・企業などをご紹介します。(総務部)

地元・高田馬場のみなさま

当館は1940年11月に豊島区雑司ヶ谷に創立し、翌年の3月に現在地、新宿区高田馬場一丁目(当時は淀橋区諏訪町)に移転しました。以来、戦時中の疎開の時期もありましたが、当館は83年間にわたりこの地で事業を行っており、近隣の方々にはたいへんお世話になっております。

高田馬場は、当館の他に、東京都盲人福祉協会、桜雲会、日本視覚障害者団体連合、東京ヘレン・ケラー協会と、駅からの徒歩圏内にいくつもの関係施設があります。そのほかに視覚障害に特化した情報機器関連の会社や視覚障害者交流コーナーがある新宿区社会福祉協議会もあり、たくさんの視覚障害者がこの町を訪れています。昭和45年には点字ブロックが大規模に敷設され、自治体がこれだけの規模の点字ブロックを敷設した初めての町としても有名です。

しかしそれだけでなく、視覚障害者に対して、道で困ってれば声をかけて案内をしてくださる方や、対応に慣れているお店があり、JR高田馬場駅では視覚障害者誘導についての研修を駅職員に頻繁に実施するなど、町全体が視覚障害者に理解を示され当館利用者を助けていただいていることを、当館もありがたく受けとめております。

地元にも長年にわたりご寄付をいただいている方がいらっしゃいますが、経済面だけでなくこういった形でも当館を助けていただいている高田馬場のみなさまに感謝申し上げます。



高田馬場駅周辺

点字の本で広がる世界

点字製作課 むらかみはるか
村上晴香

日々利用者の皆さまからは、様々なジャンルの図書のご希望があります。ご希望は小説以外にも、最近の世界情勢に関する本、好きなアナウンサーやスポーツ選手が書いた本、料理のレシピ本、健康に関する本など、多岐にわたります。これらの本を点訳ボランティアの皆さまにお送りして、点訳をしていただいています。

点字は仮名文字なので、点訳するにはまず漢字の読み方を調べなければなりません。点訳ボランティアの皆さまはご自身のわからないことでも、様々な手段を用いて調べ、点訳をしてくださっています。中には五十年近く点訳をしてくださっているベテランの方もいらっしゃいます。そんな点訳ボランティアの皆さまからのご質問は、とても難しいものばかりで、私は毎回頭を悩ませながら回答をしています。人名や地名、書名・文献名などの読み方は、インターネットや辞書などを駆使して調べますが、簡単にはわからないものもあります。最近はAIが発達して簡単に使えるようになったことから、AIに質問して調べることも出てきました。ただ、AIも間違えることがあるので、AIがどこを根拠にしているかを確認して回答するようにしています。

点訳ボランティアの皆さまが点訳してくださった本を校正する際に心がけているのは「点字としてわかりやすいかどうか」です。レイアウトの難しい本や図表のある本は、視覚障害職員と一緒に校正し、検討をします。図表は目で見ると一覧となってわかりやすいですが、点字は一文字一文字読むため、見た通りに点訳しても意味が伝わらないことがあります。どうやったらこの図表の意味を点字でわかりやすく伝えることができるのか、日々試行錯誤しています。

本を希望する読者は、その本と出会うことを楽しみに待っていらっしゃいます。読みやすい点字の本を読者に一日でも早くお届けできるよう、これからも励んでまいります。

ご存知ですか?

こんな商品

わくわく用具ショップより、どなたが使っても便利な商品をご紹介します。
ウェブショップからもお買いものができます。ぜひご利用ください。

お問い合わせ 03-3209-0751

URL <https://yougu.nittento.or.jp/>

富山サンダー折りたたみ傘 127cm

[大きさ] (長さ) 約 295 × (直径) 約 60mm (折りたたみ時)

[重さ] 約 419g

[メーカー] 株式会社シューズセレクション Waterfront®

[価格] 3,960 円 (税込み)



2人で入っても十分な直径127cmの特大折りたたみ傘です。親骨は70cm、傘骨は8本で丈夫なグラスファイバー製です。

3段折り、折りたたむと長さ約30cmとコンパクトになります。

「富山の風雪に耐えられる傘」をコンセプトに考えられた傘で、弾力性のあるグラスファイバー骨を合金パーツでとめており耐風性に優れています。

水滴を弾く超撥水加工と、晴れても安心なUVケア機能付です。傘袋の底面にはタブがついており、それを引っ張ることで傘を簡単に取り出せます。

色はスチールグレーとナイトブルーからお選びいただけます。

チャリティコンサートのご案内

第22回本間一夫記念日本点字図書館チャリティコンサートは、ヴァイオリニストの澤和樹さん、ピアニストの梯剛之さんをお迎えして開催します。

澤さんは2022年まで東京藝術大学学長を務め、現在は同大および英国王立音楽院名誉教授。ヴァイオリニスト、教育者として国際的に活躍し、2023年には韓国文化体育観光部長官賞を受賞されました。

梯さんは生後間もなく失明。4才半よりピアノを始め、小学校卒業と同時にウイーン国立音楽大学準備科に入学。世界的なピアニストとして活躍し、小澤征爾等多くの指揮者とも共演しました。2022年から日本音楽コンクールピアノ部門審査員も務めています。澤さんは昨年、梯さんは2014年以来、2回目のご出演です。

出演：澤和樹・梯剛之

日時：2024年11月24日（日）13時30分開場、14時開演（予定）

会場：東京文化会館 小ホール（JR上野駅公園口改札より徒歩1分）

料金：4,000円（全席自由）

曲目（予定）：

モーツァルト：ヴァイオリンとピアノのためのソナタ ト長調 K.379

ベートーヴェン：ヴァイオリンとピアノのためのソナタ No.9 イ長調
「クロイツェル」

フランク：ヴァイオリンとピアノのためのソナタ イ長調

チケットのご予約受付および発売は、8月頃を予定しております。

お申し込み・お問い合わせは当館総務課（電話 03-3209-0241）までどうぞ。

【訂正】 前号の5ページ、堀越喜晴氏の文中、「武久君と私とは、彼1973年に、……」は「武久君と私とは、彼が1973年に、……」の誤りでした。訂正しお詫びいたします。

ってんフォーラム〈第131号〉 2024 春

発行 2024年4月25日〈年4回発行〉

発行人 長岡英司

編集人 立花明彦

発行所 社会福祉法人日本点字図書館

〒169-8586 東京都新宿区高田馬場1-23-4

電話03-3209-0241（代） FAX03-3204-5641

URL <https://www.nittento.or.jp/>

*本誌の記事を撮影したり光学的に読み取ったりして、SNS等で発信したりウェブサイトへ転載することを固くお断りします。

ワクワク! / ドキドキ!



あなたと映画を観たい。

映画みている!

「スマホで聞く音声ガイド」 



NPO メディア・アクセス・サポートセンター

〒151-0061 東京都渋谷区初台 1-51-1

初台センタービル 709号室

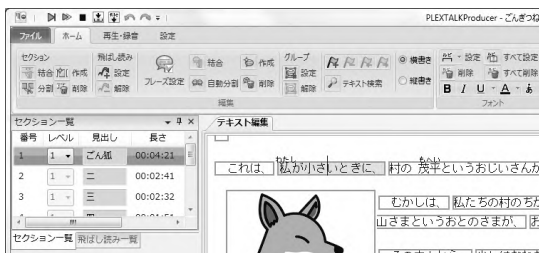
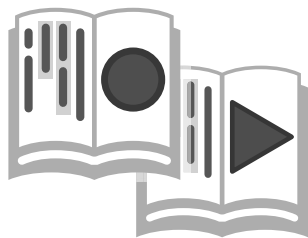
MASC

検索



ポッドキャスト

音声 / テキスト / マルチメディア DAISY 製作ツール



PLEXTALK Producer

で作れる 新しい DAISY のカタチ

音声DAISY … 録音図書標準方式

- ⊗ テキスト文書から音声合成で図書が作れます
- ⊗ CD書き込み機能で、直ぐに貸し出しできます

テキストDAISY … 音声のない DAISY

- ⊗ データ容量が小さく、受け渡し時間が短縮できます
- ⊗ ルビ振りにも対応し、正しい読みも担保できます

マルチメディアDAISY … 音声とテキストのマルチメディア

- ⊗ ディスレクシアなど合理的配慮の利用対象者が広がります
- ⊗ 既存の音声を使ってマルチメディア化もできます

90日間無料操作体験版は www.plextalk.com からダウンロードできます

サポート OS	Windows 11、Windows 10、Windows 8.1 以降 ※ 各 OS は日本語のみサポート
プロセッサ	Intel Core i3 以上推奨
メモリ	4GB 以上推奨

レイアウトツール 文字化ツール (OCR) でデータ取り込みが楽々！

PLEXTALK Producer 簡単取り込みセット ¥88,000 (税込)

PLEXTALK Producer 単体 ¥49,500 (税込) 簡単取り込みオプション ¥38,500 (税込)

販売元：

シナノケンシ株式会社

〒386-0498
長野県上田市上丸子 1078

製品情報、ご注文はホームページ：

www.plextalk.com

※ Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。Intel Coreは米国および/またはその他の国におけるIntel Corporationの商標です。
※ 記載の情報は2022年6月のものです。機能および外観デザインなどは、性能向上その他の理由で、予告なく変更することがあります。PLEXTALK、PLEXTALKロゴはシナノケンシ株式会社の商標です。